

第2回大島町地域公共交通活性化協議会会議結果（要旨）

会 議 名	第2回大島町地域公共交通活性化協議会
開 催 日 時	令和5年6月30日（金）午後1時30分から午後2時45分まで
開 催 場 所	大島町開発総合センター1階 大会議室
開 催 方 法	オンサイト、Web会議システムを利用したオンライン会議によるハイブリット形式
委員出席等	木中会長、長野職務代理、柴田委員、岡田委員、堀江委員、武山委員、鈴木委員（代理：染谷氏）、下村委員、高橋委員、藤田委員、吉澤委員、鈴木委員、宮本委員、辻委員、平野委員、山本委員、稲葉委員、川島委員、妹尾委員
事務局出席者	船木事務局長、中村事務局員、秋田事務局員
議事・報告	<p>【報告事項】 異動に伴い変更となった委員4名について紹介を行った。</p> <p>【議事】 (1) 地域旅客運送サービスの役割、基本的な方針と施策・事業 (2) 目標の検討方針</p>
会 議 資 料	別添のとおり
会 議 結 果	<p>【報告事項】 ・事務局より異動に伴い変更となった委員4名について参考資料を基に紹介を行った。</p> <p>【議事】 (1) 地域旅客運送サービスの役割、基本的な方針と施策・事業 ・事務局より資料説明を行った。 ・長野職務代理より他都市事例等について紹介後、各委員との意見交換を行った。 (2) 目標の検討方針 ・事務局より資料説明を行った。 ・意見が出なかったため閉会。</p>
出された主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事例1：某自治体（買物送迎ツアー） ・買い物支援輸送として75歳以上の高齢者向けに導入したが、だんだん送迎ツアーが高齢者の居場所となっていく 買い物移動の選択肢を増やすことができるかを検討 ・事例2：某自治体（パーソントリップ調査） ・それぞれの交通サービスの利用状況を確認するためにパーソントリップ調査を実施 移動手段の組み合わせができないかを検討、課題をあぶりだす ・課題は移動だけにとどまらず生活維持に結びつく、その地域に合う生活維持のための交通のありかたを考えたい。 ・大島町全体の移動をもう一度調査するべきだと考える。

- ・モニター（よく来ている人）に対する移動調査も必要だと考える。
- ・大島町に適合する交通のあり方を考える際の材料を集めていく。
- ・人流データで繁忙期の流動が見ていくことも可能性として考えられる。
- ・大島でも買い物ツアーは実施している。買い物が大事ではなく人が集まるのが目的でも問題ないかということか。大島でも現在そのようなスタンスで買物送迎ができていると思う。
- ・バスの良いところは多くの人数を時間通りに運べることである。バスは主要なところを走行し、人が少ないところはタクシーや他モビリティ等の手段でカバーできれば良いと考える。
- ・送迎を実施しているところは多い。集まる場所もあるのでやっていることはやっている。かつては島民もタクシーを使っていたが今は利用が減っている。島民の需要とタクシー会社の要望がマッチしていないと感じる。タクシーがうまく維持できるように手を入れてほしい。また、バスが出ない際にタクシーを利用してもらう等、タクシーが利用されるような仕組みができることを望む。
- 他自治体ではバスが出ない際にタクシーを利用してもらうような検討がなされている。そういった事例はある。
- 三原山へのバス運行をとりやめたが、タクシーが運行してもらい助かっている。大島は観光地でもあるので、観光客のためにも移動手段を確保できるようにしていきたい。
- タクシーとバスで連携することは大事だと考える。
- ・弊社では送迎をする際、一部事業ではマンツーマンでしか対応しない等のきまりがある。まとめて利用するように地区で働きかけていくことも必要ではないか。
- ・繁忙期と非繁忙期のことを考えるのは大事だと思う。キックボードは交通事故の懸念もあり、活用できるのか。レンタサイクルは乗り捨てが発生することを懸念している。サンセットパームラインは良いところであるがうまく活かされていないと思う。
- ・観光客に訪れてほしい。
- ・キックボードは地区内での利用は良いと思うが、元町から波浮港まで等の地区間移動で利用されると自家用車への影響が懸念される。また、公共交通無料デーは1日ではなく1ヵ月間にするなど、習慣化させることも良いのではないか。
- ・バスの乗り方教室について、以前実施した際に反応がよかった。また車椅子利用者等への理解も深まった。そういう機会があればバスの利用率も上がると期待している。また、子どもが喜んでくれたのでバスに興味をもつ子どもも多いと思う。大人も観光客も乗り方を知らない人が多いので、実施には効果があると思う。繁忙期は難しいが非繁忙期は可能である。ぜひ協力できればと思う。
- ・弊社としては、船便と接続して島内の交通を維持するという目標はある。一方で各関係者のニーズを合わせると空中分解してしまうと考える。移動の実態を調査して課題を洗い出す、そこから解決策を考えるのが良いと考える。

	<p>(バリアフリーについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弊社では後ろ側のドアに車椅子乗降用のスロープ設置が可能であり、ワンステップバスの他、ノンステップバスを導入している。 ・介護タクシーは1台ある。補助ができる人が2名おり、車椅子をタクシーに入れるようにはできているが、ほぼ利用はない。 ・車椅子収納可能車両、スロープ付きの車両が計4台ある。事業の継続性について課題を感じている。 ・介護タクシーがある等、住民や観光客等にわかりやすく周知したほうが良いと思う。 ・利用しない人にとってはバリアフリーに関する情報は分かっていないと思う。
<p>問い合わせ先</p>	<p>事務局 大島町政策推進課振興企画係 04992-2-1444</p>